

不況を乗り切れ! 浜松サバイバル戦略

技術を武器に 未来へチャレンジ

原田精機株式会社 社長 原田浩利

月探査衛星「かぐや」 にも部品を供給

現在の厳しい不況下でも、独自の技術力を武器として、果敢にチャレンジしている元気印の企業が浜松市北区東三方町にある。航空・宇宙産業向けの部品製造を手がける原田精機株式会社だ。

同社は2007年、二輪・四輪車部品などの「0(ゼロ)次試作(研究開発モデルの試作)」メーカーである原田精機工業株式会社から分離・独立。レース車両向けを含む二輪・四輪車部品で培った高度な加工技術を活かし、高品質の衛星用部品などを次々と世に送り出している。

「現在、地球上を飛んでいる国産の人工衛星のほとんどに、当社の部品が搭

載されています。また、日本初の月探査衛星「かぐや」にも、部品を供給しているんです」と、原田精機の原田浩利社長は語る。

昨年末に完成した同社の新本社工場では、巨大な5軸同時切削加工装置が据え付けられ、ひときわ存在感を示す。10年前、業界に先駆けて導入した同装置により、レーシングマシン・航空機用部品の精密加工を行っていたが「宇宙関連でも技術力をアピールしたい」と原田社長は考え、同装置で特殊なインペラー(羽根車)を試作。この試作品を2000年の「中小企業テクノフェア」に出品したところ、人工衛星を開発する大手電機メーカーの目に留まり、これをきっかけに宇宙分野への進出を果たしたという。

また、工場内には長さ5メートルの長

大なテーブル(加工台)をもつ3軸加工機もある。これは、航空機の翼など長くて高精度を要求される部品の製造に用いるもので、ベッドはリニアモーター駆動により超精密位置決めが可能。「これらの精密加工装置はちりや温度変化を極度に嫌うため、設置したフロアはクリーンルームとなっており、室内の温度は年間を通じて20度にコントロールしています。同時に、建物の基礎や機械の土台を強固にし、加工時の誤差発生を最小限度に抑えています」(原田社長)。

工場内では、製造担当者がプログラミング、加工、検査までを一貫して行う「一人一品」方式を採用している。ある部品を試作する際、担当の技術者が「一国一城の主」となり、責任をもって仕事を完成させるという方式(最終検査は品質保証課が担当)だ。これには高度な加工技術だけでなく、全体の流れを把握して段取りを決めるプロダクト・マネージャーとしての能力も要求される。

「当社のスローガンは『ものづくりと人づくり』。一人一品方式も、このスローガンに沿ったものであり、一人ひとりをプロとしてレベルアップさせる手段です」。



夢ある企業活動を強調する原田浩利社長

さらに同社の特色を付け加えれば、それは徹底した品質・情報管理だ。まず品質管理では、2000年に品質マネジメントの国際規格「ISO9001」と環境マネジメントの国際規格「ISO14001」を同時取得。2007年には、宇宙・航空の国際的な品質規格「EN9100(AS9100/JISQ9100)」の認証を取得した。

また情報管理においては、2005年に情報セキュリティのマネジメント

システム「BS7799-2」の認証を取得。宇宙・航空産業の大手企業は取引先の部品メーカーに対し、高度な品質とともに徹底した守秘義務を求めており、それへの対応として「BS7799-2」の認証を製造業としては初めて取得した。

いずれの規格も、権威あるドイツの認証機関から認証を取得し、世界市場を視野に入れた品質・情報管理戦略を徹底させている。「情報管理に関して、当社は取引先とはもちろんのこと、社員とも機密保持契約を結んでいます。また工場内への人の出入りに関しては、来客も含めて、いつ、誰が、どの程度の時間滞在したかを徹底的に管理。写真撮影でも、加工中の製品などは絶対に写さないの言うまでもありません」と原田社長は強調する。

そうした、一中小企業としては極めて異例な同社の生産・品質・情報管理体制は、全国から大きな注目を集めている。新聞、雑誌などで頻繁に取り上げられる一方、「不況の中で元気印を保つ秘訣を聞きたい」という中小企業経営者が全国から来訪するという。

「当社は不況に強いと言われますが、そもそも不況に強い会社なんてあるんでしょうか(笑)。ただ、物事の捉え方は

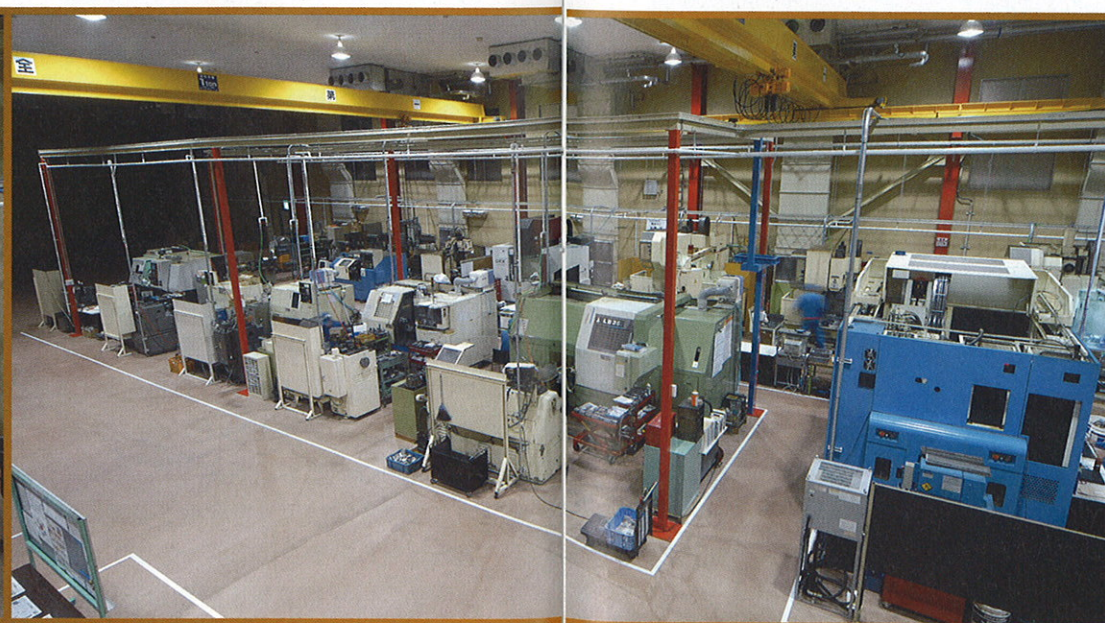
他と少し違います。例えば、今は盛んに『100年に一度の不況』と言われますが、わたしはこれを『100年に一度のバーゲンセール』と考えています。つまり、営業マンが顧客に対して『今はバーゲンセールですから、喜んで値引きしますよ。でもバーゲンが終わったら、また適正な値段でお願いしますね』と働きかけていけばいいんです。そうすれば、顧客側とも前向きに話し合えます。これは品質の高いものを現在の予算で提供することで、時勢に合った企業活動だと思えます」

原田社長が来訪した経営者にこの話をすると、相手は「なるほど」と納得し、肩の荷を降ろしたような表情で帰っていくという。

「もう一つ、大事なのは夢をもつことです。例えば、JAXA(宇宙航空研究開発機構)では『かぐや』に続く月探査計画として、2010年代中頃までに月着陸探査機の実現を目指しています。もちろん、それに当社の製品が使われると決まったわけではありませんが、今から『どんな部品を開発しようか』とビジョンを描くことが大切。当社はこれからも、夢ある企業活動を追求します」と原田社長は語っている。



業界に先駆けて導入した5軸同時切削加工装置



工場内は「一人一品」方式のレイアウトとなっている



航空機の翼などを製造する3軸加工機